

■中村正直(敬字) 教育家、啓蒙家。大ヒットの「西国立志編」など新思想の普及に努め、女子・幼児・盲啞教育に尽力。

なかむらまさなお  
鼠小僧磔・・・1832＝ 江戸麻布丹波谷で二条城交番同心の長男に生まれる。

高島砲術・・・1834＝ 2歳：\_四書素統・書法を師について学ぶほど早熟で、  
滑稽+人情本 1835＝ 3歳：石川梧堂につき書法を学び梧山と号し、

大塩平八郎乱1837＝ 5歳：法華経を写して本伝寺に納め、

天保改革始・1841＝ 9歳：\_昌平黌始って以来の若さで素読吟味に応じて白銀三枚の賞を受けた。  
天保改革弾圧1842＝10歳：平田馬之進・川崎魯助らにつき正式に漢学を学びはじむ。

阿部正弘首座1845＝13歳：  
孝明天皇・・・1846＝14歳：井部香山のもとに入門。  
・・・1847＝15歳：桂川国興について、ひそかに蘭学を学ぶ。  
・・・1848＝16歳：昌平坂学問所寄宿寮に入り、漢学を修む。

国定忠治磔・1850＝18歳：  
\_成績優秀で、儒官だった佐藤一斎から模範生と見做され、

ペリー来航・1853＝21歳：学問出精につき銀子五枚を賜わる。誓詞を認む。

安政大地震・1855＝23歳：学問所教授方出役を仰付けられ、十人扶持を受く。

蕃書調所・・・1857＝25歳：学問所勤番に続いて、甲府徹典館学頭を仰付けらる。  
五ヶ国条約・1858＝26歳：甲府に赴任。  
安政の大獄・1859＝27歳：甲府より江戸に帰着。御儒者動向見習を仰付けらる。この年結婚。  
桜田門外変・1860＝28歳：父母が相次いで死去。  
遣欧使節・・・1861＝29歳：御儒者見習仰付けられ二百俵の高に足高。  
生麦事件・・・1862＝30歳：\*異例の若さで儒官に列せられた。  
8月18日政変 1863＝31歳：将軍家茂上洛の途に雇従。  
禁門の変・・・1864＝32歳：上洛中に佐久間象山と会見。  
薩摩藩士密航1865＝33歳：「英華辞典」を勝安房より借りて筆写。  
薩長同盟・・・1866＝34歳：\_イギリス留学を志願し、年長だったことから留学生取締に任じられ、横浜を出帆してイギリスに向う。  
明治維新・・・1868＝36歳：\_維新のため、フランスを経て帰国。静岡学問所開校し、その一等教授に任命さる。「敬天愛人説」  
戊辰戦争終・1869＝37歳：「請質所聞」  
初の日刊新聞1870＝38歳：\_スマイルスの「セルフ・ヘルプ」を翻訳した「西国立志編」全一三編の第一稿を脱稿。  
廃藩置県・・・1871＝39歳：\*「西国立志編」全編刊行してヒット、「明治の聖書」といわれたほど多大の影響を与えた。宣教師クラークを横浜に出迎え、以後、日本での教会づくりに協力。「擬泰西人上書」

学問のすすめ1872＝40歳：\_J.S.ミル「自由論」の翻訳「自由之理」を刊行し、再びヒット。静岡より上京、大蔵省翻訳に就任。「英訳漢語」。  
キリスト教がまだ禁教であったこの年、天皇も洗礼を受けよとする匿名論文「擬二泰西人上書」を書き、  
明治6年政変 1873＝41歳：「西国童子鑑」「共和政治」。\_私塾同人社を江戸川畔大曲の邸内にを設けて英学を教授。〔東京新報〕の刊行を支援。同人らと明六社を結成。

佐賀の乱・・・1874＝42歳：\_「西裨雜纂」第一冊。〔明六雑誌〕発行。明六社でも活躍。大蔵省翻訳局廃止。カナダ・メソジスト宣教師G・カックランより自宅において受洗し、クリスマス祝会を開く。

初の民間工場1875＝43歳：「愛敬歌」。\_同志とともに訓盲院設立の運動を始め、胃病を患い重態に陥るも、東京女子師範学校摂理囑託となつて、同校を開校に漕ぎ着ける。

三つの反乱・1876＝44歳：\_「同人社〔文学雑誌〕創刊。訓盲院設立、  
西南戦争・・・1877＝45歳：\*東京大学文学科囑託となつて、新政府に取り込まれる。

大久保暗殺・1878＝46歳：「西洋品行論」第一・二編を刊行。  
琉球処分・・・1879＝47歳：東京学士会院設置され、その会員に選出される。

・・・1880＝48歳：訓盲院事務開始。東京女子師範学校摂理を辞す。  
明治14年政変1881＝49歳：従五位に叙せらる。\_東京大学教授に任ぜらる。

新体詩抄・・・1882＝50歳：大学に古典講習科設置。「題奇蹟論」  
岩倉具視没・1883＝51歳：「序文応酬謝断」の広告を掲載。「自叙千字文」

秩父事件・・・1884＝52歳：東京大学教授勅任に進めら、正五位に叙す。「生死論序」「童子亀鑑」  
内閣発足・・・1885＝53歳：第一回中学校師範学校教員免許学力試験委員を仰付けらる。訓盲啞院商議員囑託。

帝国大学始・1886＝54歳：元老院議員に任ぜらる。「西洋節用論」。第二回中学校師範学校教育免許学力試験委員囑託。勅任官二等、従四位に叙す。

初の対等条約1888＝56歳：「報償論」。\_文学博士の学位を受ける。

帝国憲法発布1889＝57歳：「古今東西一致道徳ノ説」。東京市会議員に当選。同人社の経営を杉浦重剛らに委ねることを広告。小石川区会議員に当選。

帝国議会始・1890＝58歳：{ゆにてりあん}第一号に寄稿。高等師範学校の女子部を女子高等師範学校となし、女子高等師範学校校長を兼任。「徳育大意」。貴族院議員に勅選。

足尾鉉毒始・1891＝59歳：病に臥す。特旨をもって正四位に進めらる。望岳堂・望岳楼と書し、絶筆となる。勲三等に叙せられ瑞宝賞を賜わる。\_没した。